

2009 年度氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会（2009・札幌）において、氷河情報センターのオーガナイズドセッションおよび総会を開催した。オーガナイズドセッションではモンゴル氷河に関して2件の講演と質疑応答が行われた。引き続き行われた総会では、活動・会計報告、役員改選、活動方針・予算案の承認ならびにその他を行った。

日時：9月30日（水）15：45-17：30（総会16：55-17：30）

場所：北海道大学学術交流会館（小講堂）

オーガナイズドセッション：

近年、日本の研究者が精力的に行っている世界の氷河調査の中でモンゴル氷河を取り上げ、現地調査の内容やその成果について紹介していただいた。

講演の内容は、最初に矢吹裕伯氏（海洋研究開発機構）に「モンゴル氷河インベントリー—2000年氷河インベントリと近年50年間の氷河の変動—」と題して、モンゴル・アルタイ山脈を中心として衛星画像の利用から明らかになったモンゴル地域の氷河分布について説明していただいた。同時に1950年代に撮影された航空写真ベースの地形図を基に氷河分布域の抽出を行い、これから判明した過去約50年間の氷河域変動についても説明していただいた。

続いて、門田勤氏（海洋研究開発機構）に「モンゴル・アルタイ氷河調査」と題して、モンゴル・アルタイ山脈西端タバンボグド地域ポターニン氷河の氷河調査について紹介していただいた。氷河消長の実態とその気候との関係の把握を目的として、2003年9月より質量収支および流動観測、2007年6月より氷河上およびその近傍でのAWS設置による気象観測を、それぞれ継続している。これらの観測から現段階で得られた結果と今後の展望について、お話していただいた。

限られた時間のセッションではあったが、これまで氷河観測が必ずしも十分ではなかったモンゴルでの調査・研究結果について、まとまった話を聞く機会を提供できたと考えている。特に今回はリモートセンシングの手法による氷河インベントリからの氷河変動研究と実地での観測研究という、相互補完的な研究成果の話題が提供され、有意義なセッションとすることができた。今後も研究の発展が期待されるセッションであった。

総会：

- 1）2008-09年度活動報告
1. 2009年度総会の実施

2. 氷河情報センターニュースNo.31の編集・発行（「雪氷」71巻3号，209-214）
 3. オーガナイズドセッションの企画
 4. 氷河情報センターHPの一部改訂
- 2）2008年度会計報告
- 3）役員改選（○：今回新任，他は継続）
- センター長：○白岩孝行（地球研）
- 財務幹事：杉山 慎（北大低温研）
- 庶務幹事：中澤文男（融合センター/極地研）
- 広報幹事：三宅隆之（極地研）・岡本祥子（名大）・津滝 俊（北大）
- 4）2009-10年度活動計画の承認
1. 2010年度総会の実施
 2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
 3. オーガナイズドセッションの企画・開催
 4. 氷河情報センターHPの改訂および充実
- 5）2009年度予算案の承認
- 6）センター活動支援基金の事業実施について
- 学会の財務関連の質疑応答および基金を利用した活発な活動が行われるべきであるなど議論が行われた．基金の活用案として，今回のオーガナイズドセッションの演者である矢吹裕伯氏（海洋研究開発機構）が構築されているモンゴル氷河インベントリの出版が提案された．これに加えさらに今後も継続して事業を受け付け，検討していくことになった．
- 7）その他

文責：

三宅隆之（国立極地研究所）

中澤文男（新領域融合研究センター/国立極地研究所）